

8. シュンライの良質栽培法

福島県農業試験場種芸部・平成10・11年度秋冬作試験成績概要

1 部門名 普通畑作物—大麦—品質・食味—栽植様式・栽植密度—施肥法

02—03—27151300

2 担当者 丹治克男

3 要 旨

シュンライでは、標準基肥—半量播種—倍量追肥または半量基肥—標準量播種—倍量追肥の体系により、多収で精麦加工適性の高い麦の生産が可能である。

(1) 標準期追肥時の乾物重が30g/m²以下の場合、乾物重の増加に伴い収量は増加したが、40g/m²以上では倒伏のため減収する。このため乾物重30g以下の場合追肥の効果が期待できる。

(2) 半量播種により生育期の茎数は減少し穂数も減少するが、有効茎歩合は高まる。

(3) 基肥を半量としても標準量播種区では減収しなかったが、半量播種では生育量が不足し減収する。

(4) 倍量追肥により、基肥量・播種量に関わらず4～8kg/a程度増収する。これにより基肥半量・半量播種でも慣行区並の収量となる。しかし標準量播種では倒伏が見られた。

(5) 基肥半量または半量播種のいずれかにより搗精時間が短く精麦白度は高まる。倍量追肥では精麦白度がやや低下するが、基肥半量や半量播種とすることで慣行並となる。